



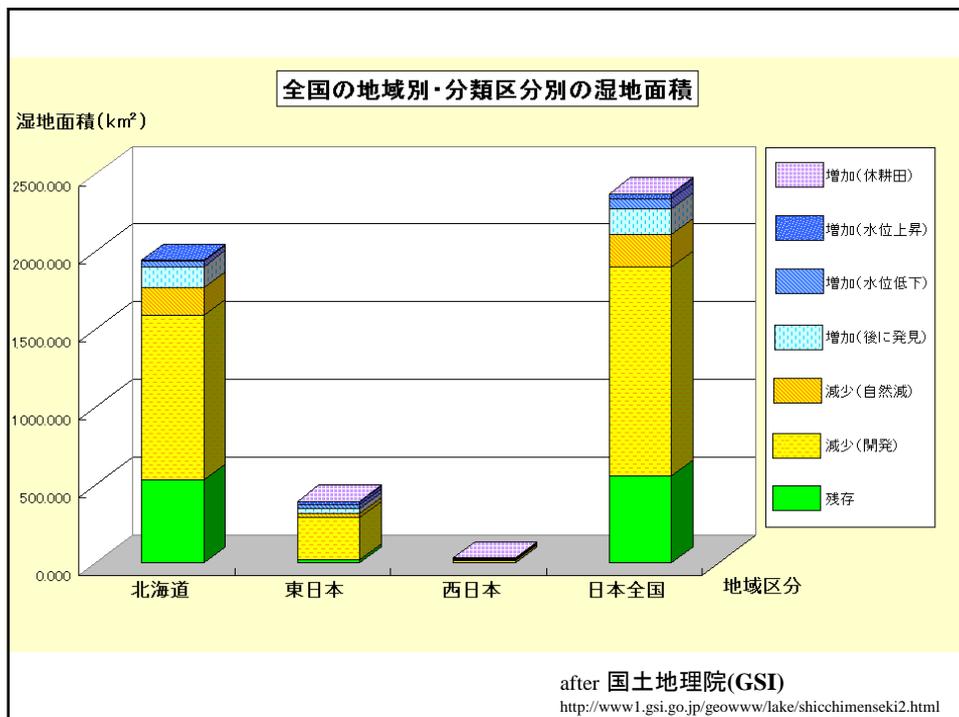
泥炭地湿原の重要性

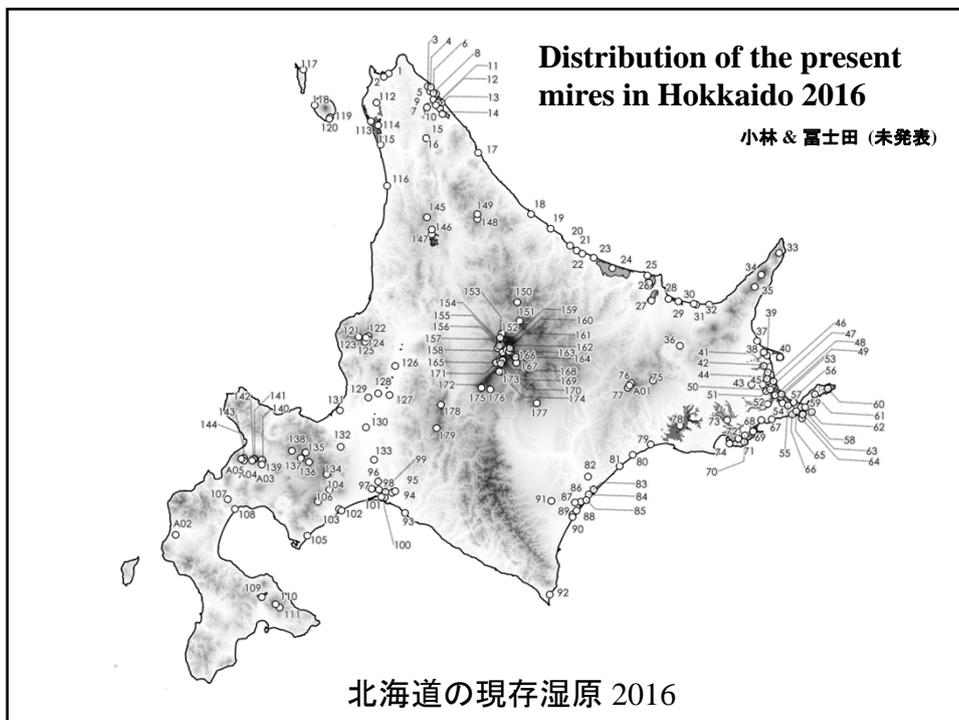
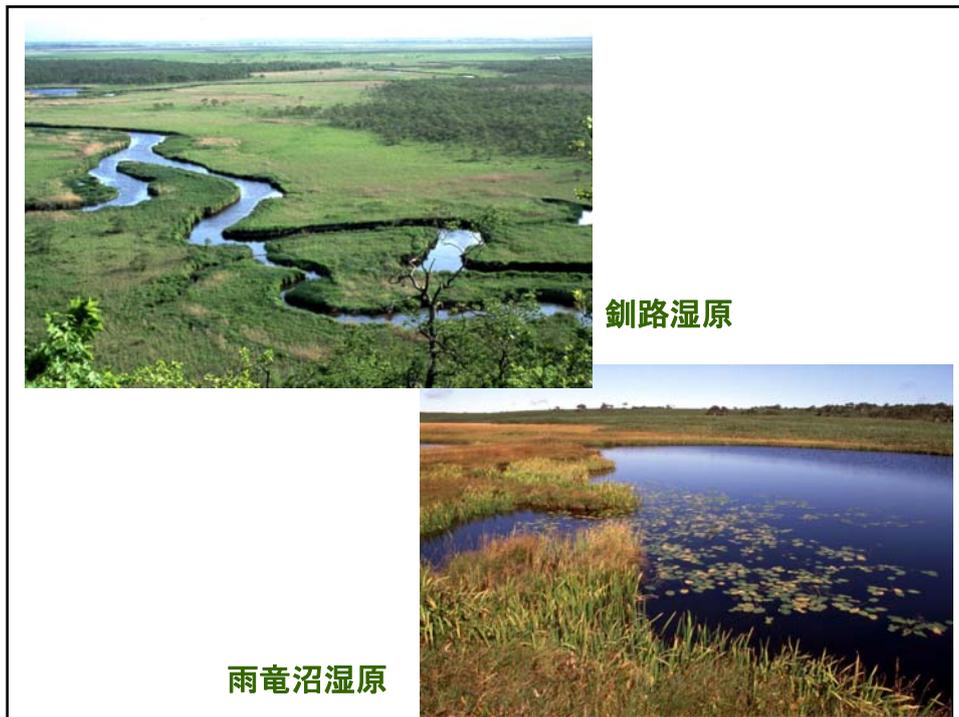
グローバルな視点:

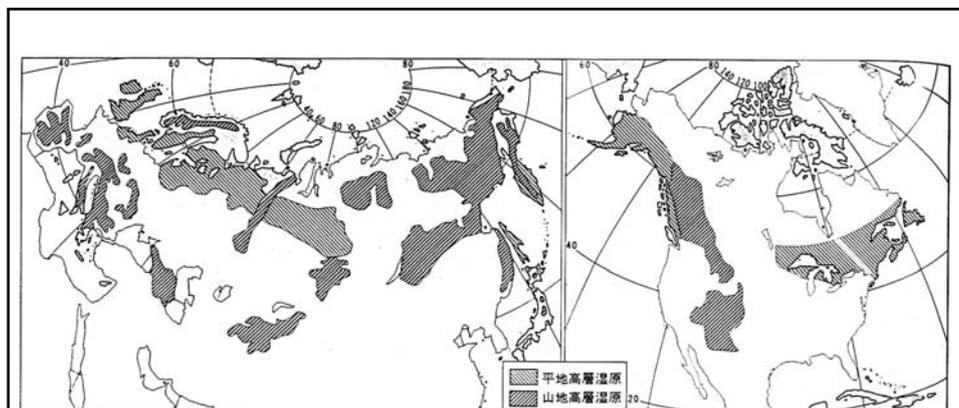
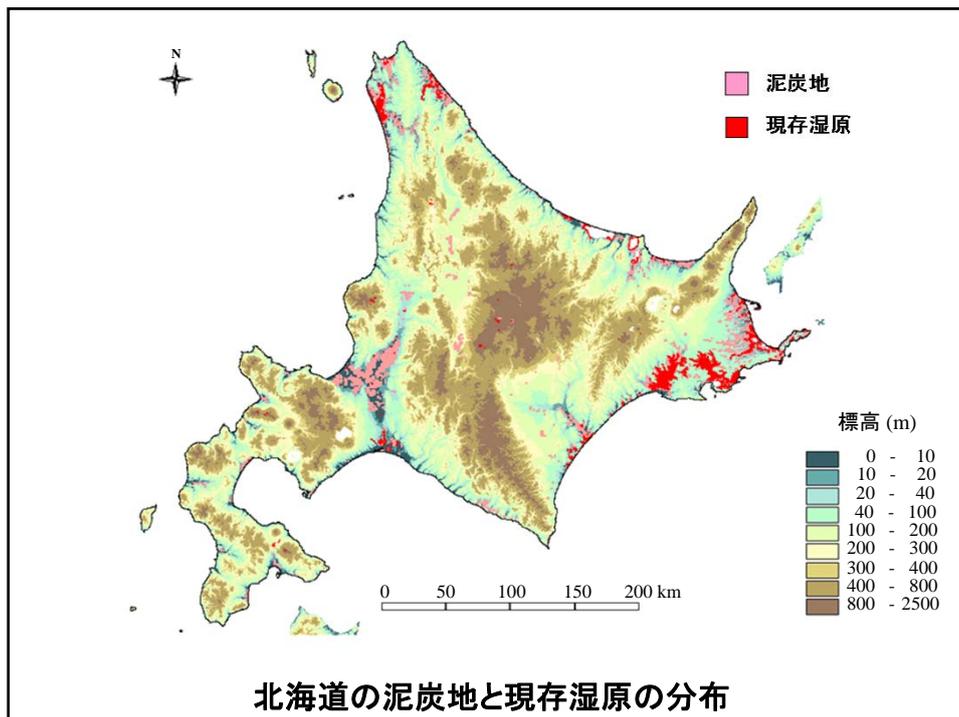
- 地球上におけるカーボン・シンクの一つ
- 生物多様性のホットスポットのひとつ
- 特にラムサール条約登録湿地では渡り鳥の重要な中継地・生息地

ローカルな視点:

- 地域固有の自然空間
- 貴重な生物の遺伝資源保存の場
- 気象条件の緩衝機能

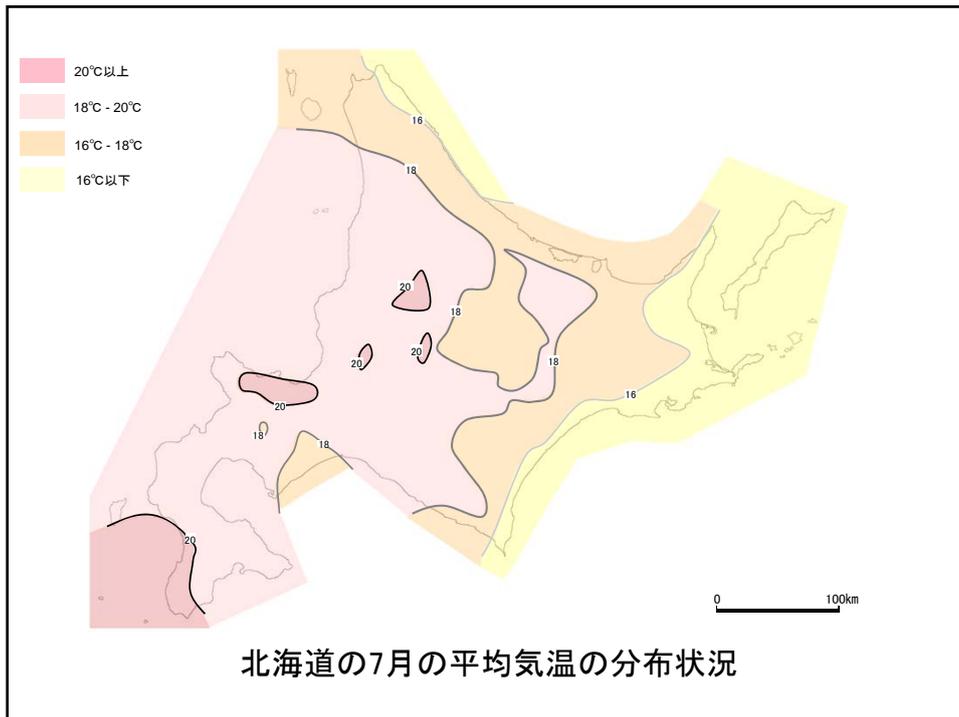




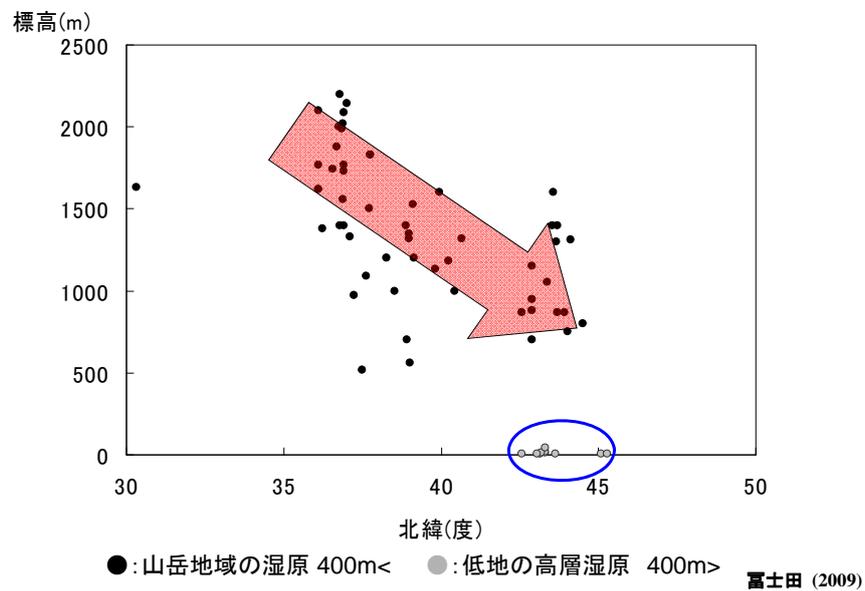


北半球の高位泥炭地の分布域

泥炭(peat) 有機質土壌で、植物残体を多く含み、枯死した植物体が完全には分解されずに堆積したもの。水の多い還元的な(酸素が少ない)環境で形成される。



山岳地域の湿原と低地の高層湿原における標高と北緯の関係



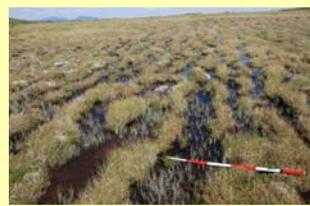
北海道の山岳(山地)湿原



沼ノ原湿原



沼ノ原湿原



平ヶ岳南方湿原



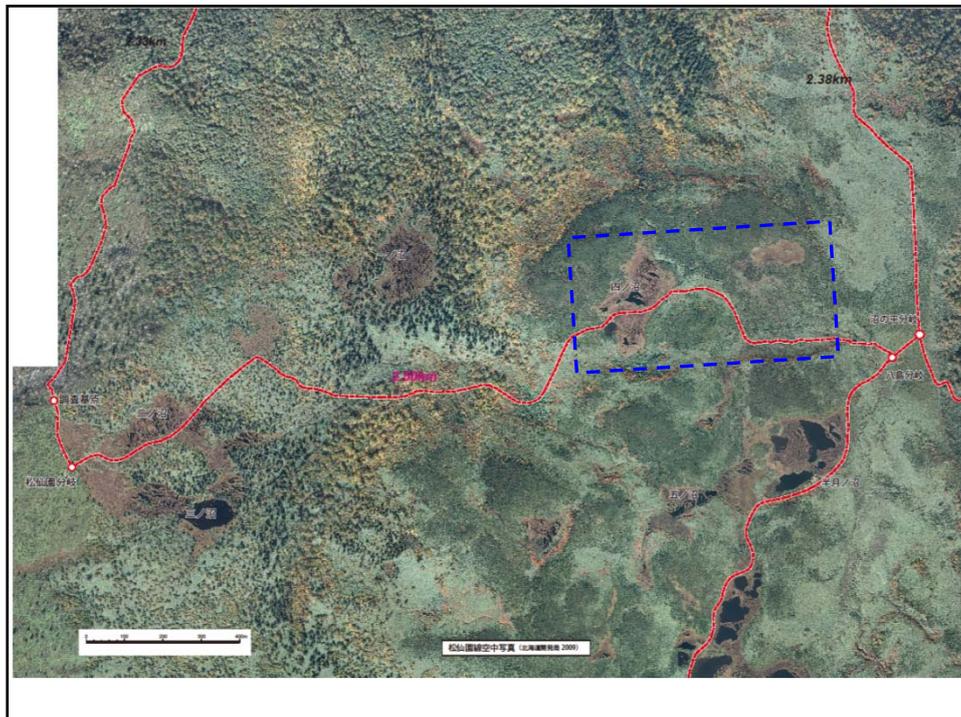
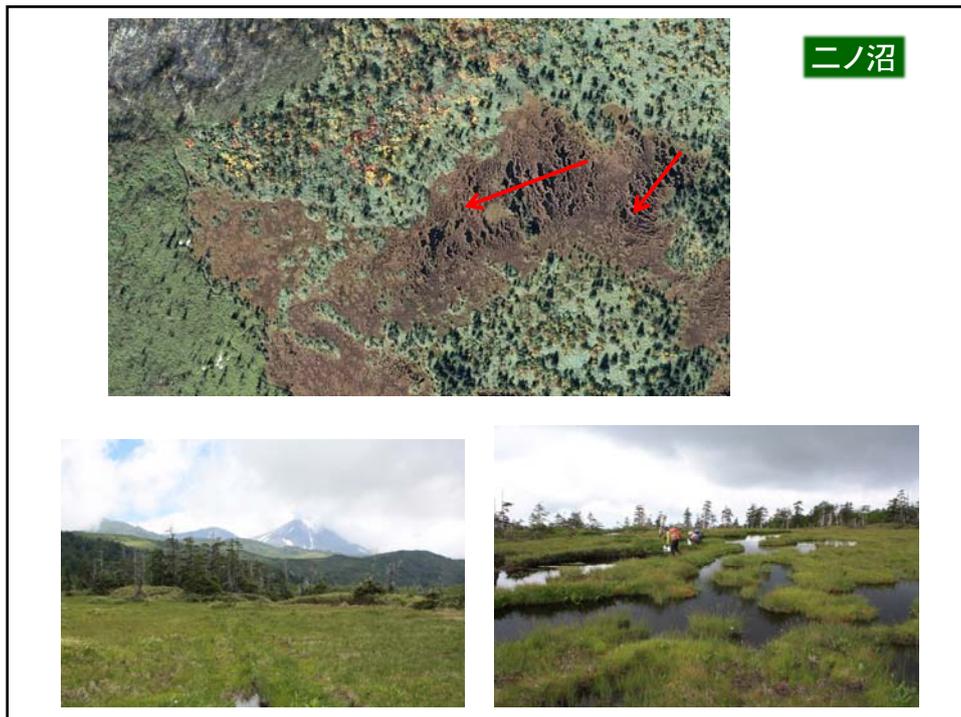
雲井ヶ原湿原



浮島湿原



雨竜沼湿原







四ノ沼東側の高台からの眺め

四ノ沼湿原のケルミとシュレンケの様子がよく見える



四ノ沼西側の岩レキ地(トラバース予定地)からの湿原の眺め

四ノ沼湿原の様子が見渡せる

ま と め

- 山岳地域の湿原(山地湿原)の形成時期は様々だが、晩氷期以降の温暖化・降水量の増加にともなって成立したものが多い。
- 松仙園は大雪山の山岳湿原の典型的な景観を有する。
- 特に、四ノ沼は、等高線にそってケルミとシュレンケが帯状に配列しているケルミ-シュレンケ複合体の発達が顕著で、その様子を見ることができる貴重な場所である。
- しかし、湿原内に登山道を通すのは、湿原への負荷のみならず、特有の微地形が登山者には見えないことから、登山道を迂回させ、高いところから、特異的な景観を眺められるようにすることを提案する。